

令和6年度

山梨における 教員育成推進事業 成果パンフレット

子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会
－OPPシートによる学習・指導と評価の一体化－

初任者研修等における
山梨大学教育学部教員の派遣

Index

教育学部長挨拶 p.1

子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会 pp.2～3

初任者研修等における山梨大学教育学部教員の派遣 p.4

令和7年4月 山梨大学教育学部



山梨大学 教育学部長
服部 一秀

山梨大学教育学部は、山梨県教育委員会・山梨県総合教育センターとの連携協力のもと、教員養成と現職教員研修の充実をめざして様々な取組を進めてきております。本パンフレットでは、その一環として令和6年度に実施しました2つの教員育成推進事業について報告します。

その1つは、「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会－OPPシートによる学習・指導と評価の一体化－」です。山梨県総合教育センターとの共催により、OPPAに関する研修会を峡東教育事務所、中北教育事務所の2会場で開催しました。

もう1つは、「初任者研修等における山梨大学教育学部教員の派遣」です。山梨県教育委員会・市町村教育委員会による小学校・中学校・高等学校での初任者研修等の27件の研究授業に本学部の教員を指導・助言者として派遣しました。

何れにつきましても、大変なご好評をいただきましたが、安住することなく事業の一層の改善につとめていきたいと考えております。本学部はこれからも地域に根ざした教員育成を推進してまいります。皆様のさらなるご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会

— OPPシートによる学習・指導と評価の一体化 —



事業概要

OUTLINE

山梨県総合教育センターとの共催により「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会—OPPシートによる学習指導と評価の一体化—」を開催しました。

本研修は、学習指導と評価の一体化を可能にし、授業方法の改善につなげていくための方法であるOPPA（1枚ポートフォリオ評価）についての研修会です。

本年度は、OPPAの中核をなす「本質的な問い」の立て方、自己肯定感を促す学習履歴の見取り方などをOPPAの基礎的な理論、事例、グループワークを通して学修しました。

更に、授業を通じて児童生徒の自己肯定感を高めるためのワークショップなど、実践的な演習を中心とした研修を行いました。

峡東会場

令和6年8月8日（木） 峡東教育事務所

講師

中北会場

令和6年8月9日（金） 中北教育事務所

辻本 昭彦（法政大学生命科学部生命機能学科 教授）



OPPA 研修会全景



辻本 昭彦 講師

本研修会は、山梨県総合教育センターとの共催事業として、総合教育センターの研修計画に組み込んでいただき、県内すべての学校に周知すると共に、各地区の教育事務所にもご協力いただきました。本年度は、通常の形で実施することができ、多くの方に参加していただきました。



内容

CONTENTS

本年度から理論編も実践編ともに辻本先生にご担当いただきました。研修会の前半では、OPPシートのねらいや作成に必要な構成要素などについてのOPPAの概要と理論について、ご講義いただきました。

講義の後半では、OPPシートの本質的な問いをどのように立てたらよいのか、自己肯定感を促すための評価の見取り方コメントの書き方など、OPPAの具体的な進め方等についてワークショップを行い、最後に主体的に取り組む態度の評価とOPPシートとの関連についてのレクチャーがありました。

◆ 受講者

研修会 …… 45名

小学校 18名、中学校 4名、高校 11名、
支援学校 5名、その他（行政・専門学校等 7名）



話し合いの様子

わかりやすく楽しい
研修会でした！



OPPAとは？

OPPAとは、One Page Portfolio Assessment の略で、「一枚ポートフォリオ評価法」と呼ばれるものです。学習者が一枚のシート（OPPシート）の中に学習の成果を学習履歴として記録し、学習の全体を学習者自身に自己評価させる方法です。シートは、次の部分に分かれています。

- ① 単元開始前と終了後に記入する「本質的な問い」
（教師がこの単元を通して最もつかませたい内容を問いの形で示したもの）
- ② 授業の中で学習者が一番大事だと思ったことや自分が考えた授業のタイトルなどを授業ごとに記入する部分

OPPAの特徴は、次のように子どもの成長と教師の成長とを繋げるところにあります。

- ◆ 学習者にとっては、自分の学習の成果を振り返り、自分の成長をつかむことができるもの
- ◆ 教師にとっては、一人一人の子どもの学びの状況を把握し、毎回の授業を振り返り、授業の改善につなげることができるもの



成果と課題

ACHIEVEMENT & TASK

研修会で各自が記入したOPPシートによると、多くの参加者が自分の授業に対する考え方が変容したり、評価方法を工夫する必要性を感じたりしたことで、今後取り組みたいことが明確になったと記述していました。

◆ 研修会での OPP シートより

授業づくりにおいて大切にしなければならない点、また、子供の見取りや本質的な問いづくりの大切さを学ぶことができました。グループワークで議論・対話をする時間を設定していただいたことで自身の考えを広げ整理することができました。(19年目の先生より)

自己肯定感を高めること、「できるじゃん」の気持ちがあることで学習に向かう子供の態度が変わると感じた。受講したことで、教師がする手立てに対して子供がどう反応し成長するかということを考えるようになった。(3年目の先生より)

ただ「OPPA について知りたい」と考え参加したが、辻本先生の話は子供たちにとって自己肯定感を高めることの大切さという根本的なことから語っていた。「評価のための道具」としての OPPA を捉えていた自分の考えが恥ずかしくなった。もう一度学校に帰ってから、自分がやってきた OPPA を作り直していきたい(8年目の先生より)

一人ひとりの子どもの成長を引き出すため、自己肯定感を高める取り組み、子どもの声を聞き受け止める教師の姿勢、違うことが当たり前だという気づきと短絡的な順位付けの無意味さの周知が重要だと思う。より具体的にまた一個人から徐々に実践者数を増やしていけば学校の文化として根付くのではないか。(34年目の先生より)

◆ 山梨県総合教育センターの事後アンケートより

たくさんの資料で学ばせていただき、ありがとうございます。グループワークでは、さまざまな校種や世代の先生と意見交換ができて、とても有意義な時間になりました。グループによって真逆の意見だったり、個人や校種での考えの違いを知ることで、何を大事にしているかが分かり、違いを知ることで自分は何を大事にしているのかを再確認することができました。

生徒が主体的に授業へ取り組むための方法や、生徒に対するアプローチのしかた、生徒との柔軟なコミュニケーションが必要だと改めて感じました。また、研修会のなかの「本質的な問い」を授業の中に取り入れ、学ぶ楽しさに生徒が気づき、主体的な学びにつながっていけるよう、今後の自分の授業に取り入れていきたいと思いました。

とにかくやってみようと思います。最初は子どもたちが書けなくても、力がついていくのかなと思いました。OPPシートをタブレットでできないかと考えましたが、子ども達とやり取りをしていくには、紙の方がよいのかなと思いました。過去を振り返るにも紙ベースでの蓄積がよいと思いますが、これからの時代を考えると、タブレットでの活用方法も考えていきたいと思っています。

OPPシートは知ってはいたが使ったことがなく、実はよくわからないものだったので、この研修を受講して少しは理解できたのでよかった。小学校や理科ではかなり重要なアイテムだということがわかり、今後授業に活用できたらいいと思う。また、講師の著作を読んだり、他の先生に紹介してみたいと思う。

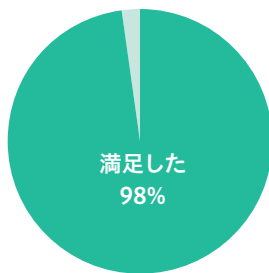
OPPシートの活用について考える良い機会となった。今回自分が参加したグループでは中高校の先生から、あらゆる活用法についての話があった。OPPシートには本質的な問いを設定するが、自分も教材研究をして児童に投げかけていきたいと思った。汎用性の高いもののため、2学期からいろいろな教科で使っていけたらと考えている。

授業実践に活用したいと思います。これまで、OPPAは次時の授業作りに生かしたり、コメント記入等で考えの変容を促したりなどの活用に使っていましたが、これからは、自己肯定感を育む視点から「いいところ探し」も実践していきたいと思いました。また、校内研究でもテーマに対する考えなどを本質的な問いに設定して活用してみたいと思いました。

特に「主体的な学習に向かう姿」を数値化するのには難しいということに納得です。しかし、数値化できないけれどこういった姿が見られたという点を重ねていくことで、正しい評価にたどり着きそうです。その点ではOPPAはとても有効だと思います。来年は、同じ学校の先生にお勧めしたいです。

辻本先生の聴講者をあきさせない実習形態と話術がすばらしく、あっという間の研修時間だった。また、スライドで実際の OPPA の画像や授業の動画を見せていただきよりイメージがしやすかったと思う。席順なども配慮されていて、異校種の先生の実践も話を聞けたのがよかった。

OPPA 理論は、私自身の実践につながるものであったので、学年の教諭たちにも共有し、学年全体で取り組んでいきたいと感じた。特に、2学期は、学習以外にも学校行事などでの取り組みもできるので、積極的に活用していきたいと思う。



◆ 総合教育センターの研修会アンケートより

Q. 研修会は役立つ内容であったか

満足した 98%
 どちらでもない 2%
 満足しなかった 0%

本研修会を通して、評価の本質についてとらえなおし、授業に対する考え方が変容した教員が多くなりました。また、研修後に実際に授業等でOPPシートが活用されたことは、大きな成果と考えます。

経験した方も初めての方も研修を深めていける内容とし、実際の授業に活用できる研修となるよう具体的な実践について触れる時間を多くとりました。今後、さらに内容を充実させOPPAへの理解を深めるとともに、OPPシートの活用を広めていくことで、多くの教員の授業力向上に役立てていただけるような研修にしていきたいと思っています。来年度も総合教育センターの外部研修として、7月30日、31日に実施する予定です



初任者研修等における 山梨大学教育学部教員の派遣



事業概要

OUTLINE

山梨県教育委員会との連携のもと、山梨県教育委員会・市町村教育委員会が拠点校等で行っている初任者研修へ本学部の教員を指導・助言者として派遣する事業を、県内4教育事務所、山梨県総合教育センター、特別支援・児童生徒支援課の全面的な協力を得て、次の通り行ないました。

派遣期間・回数

令和6年9月2日(月)～令和7年1月15日(水) 計27回

派遣人数

延べ27人

派遣校種

小学校12校 中学校8校 高等学校5校 特別支援学校2校

内 容

「初任者による研究授業」の参観とその後の「授業研究会」での指導・助言
小学校:国1・算数4・社会2・体育1・道徳4 中学校:国語1・数学2・理科1・社会2・英語2
高等学校:数学1・英語1・化学1・公共1・情報1 特別支援学校:小学校音楽・自立活動



初任者の声

校内の先生とは違う立場の先生よりご指導いただき、自分自身の教育における視野を広げることができました。また、理論的な部分をご指導くださったことで、指導の根拠が明確になりました。さらに、良い点と課題点の両方からご指導いただき、自信を持つことができました。

今回の研修ではICTの効果的な活用方法や、生徒が主体的に学ぶことのできる授業構成の大切さに気づくことができました。他教科の先生方の話を聞くことで時間配分や、グルーピング等、普段深く考えることができないところを考えることができました。今後の教科教育に繋げていきたい。

今回担当していただいた先生には、理科教育の指導に関して、的確で、すぐにでも今後の指導に生かしたいと思えるような指導・助言をしていただきました。加えて、現場のことも考慮していただき、短時間での指導を心がけてくださり、大変有り難かったです。

授業を見ていただき、算数的な視点でのアドバイスだけでなく、学級づくりや授業づくりの面でも多くの助言をいただき、とても勉強になりました。初任者としての悩みや、子ども主体の授業をつくるためのヒントを教えていただきました。

今回、大学の先生に来ていただき、ご指導いただいて、新しい発見があり、校内でもたくさん悩んだことの一つの答えが見つかりました。これから、授業を重ね一つずつ改善し、授業力を高めていきたいです。

本時の内容に繋がる内容を復習する際、学習課題を出してしまうなど、至る所に工夫の余地があることを感じることができました。研究会後に、「単線型や複線型のメリットやデメリット」、「クラス内での課題達成進度の調節の仕方」など質問させていただき、見聞を広げることができました。

派遣教員の声

対象者は、本学教職大学院の修了生でした。生徒への関わり方や授業の進め方など、大学院での経験が生きていたように感じました。また、このような機会をいただくことで、自分自身も勉強させていただくことができました。

実際に学校現場に赴くことで、学校現場で求められている資質や能力とは何かを肌で感じることができました。その肌で感じたことを学生に伝え、そのことで、将来、山梨県の教員となる際に必要な資質や能力を育む指導が私たちにできると考えました。

初任者の授業を参観することによって、初任者本人を支援するという意味があるが、それと同時に初任者の指導を通して大学で学んでいる学生に学校に出たらどのようなことが必要になるかなどを我々が把握するという意味もあり、それを実感できる大切な事業であると考えます。

初任者の指導をすることが、明日への活力になるのであれば嬉しいことである。また、少しでも忙しい学校現場に貢献できることは大変有意義であると思う。初任者が直面する課題について具体的に知ることができ貴重な機会となりました。



成果と課題

ACHIEVEMENT & TASK

大学教員が学校に出向き、従来とは違う視点からの指導・助言をすることで、研修をより深める一助になったことと思います。また、派遣された教員にとっても、学校の様子を知る良い機会であり、今後の教員養成にも資するものと考えます。

今後、大学教員のよりよい関わり方について、アンケート等を参考にしながらさらに研究を進め、事業の充実を図って参ります。

お問い合わせ先

山梨大学教育学域支援課

〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37
TEL.055-220-8102 FAX.055-220-8791



教育学部
イメージキャラクター

梨子ちゃん和大福くん

